

富海教隨著述

大日本宗教論 全

發行所 松壽院

大日本宗教論序

佛法流轉入我邦爾來距地數千海里閱年一千三

特50

234

餘上自王公下至
至可謂盛且大矣

然物盛必衰理勢固然也今也佛法頗衰頹

三寶亦隨毀損五

輩慨歎猶金剛刀刺心腸也教隨上人有慨

于此所乃著大日

本宗教論議論明確喫緊為人說破處活潑

起發滯熱清解法

歎不能止可謂法海中羅鍼盤矣縱使魔風

海者不復誤方向其達彼岸可得而知也經

云來世東北方有護法菩薩云云者其在斯人歟其在此人歟

余合掌膜拜乃題一言於卷首矣明治廿九年五月上浣午王

臺主人無用頭陀書于富海樓上



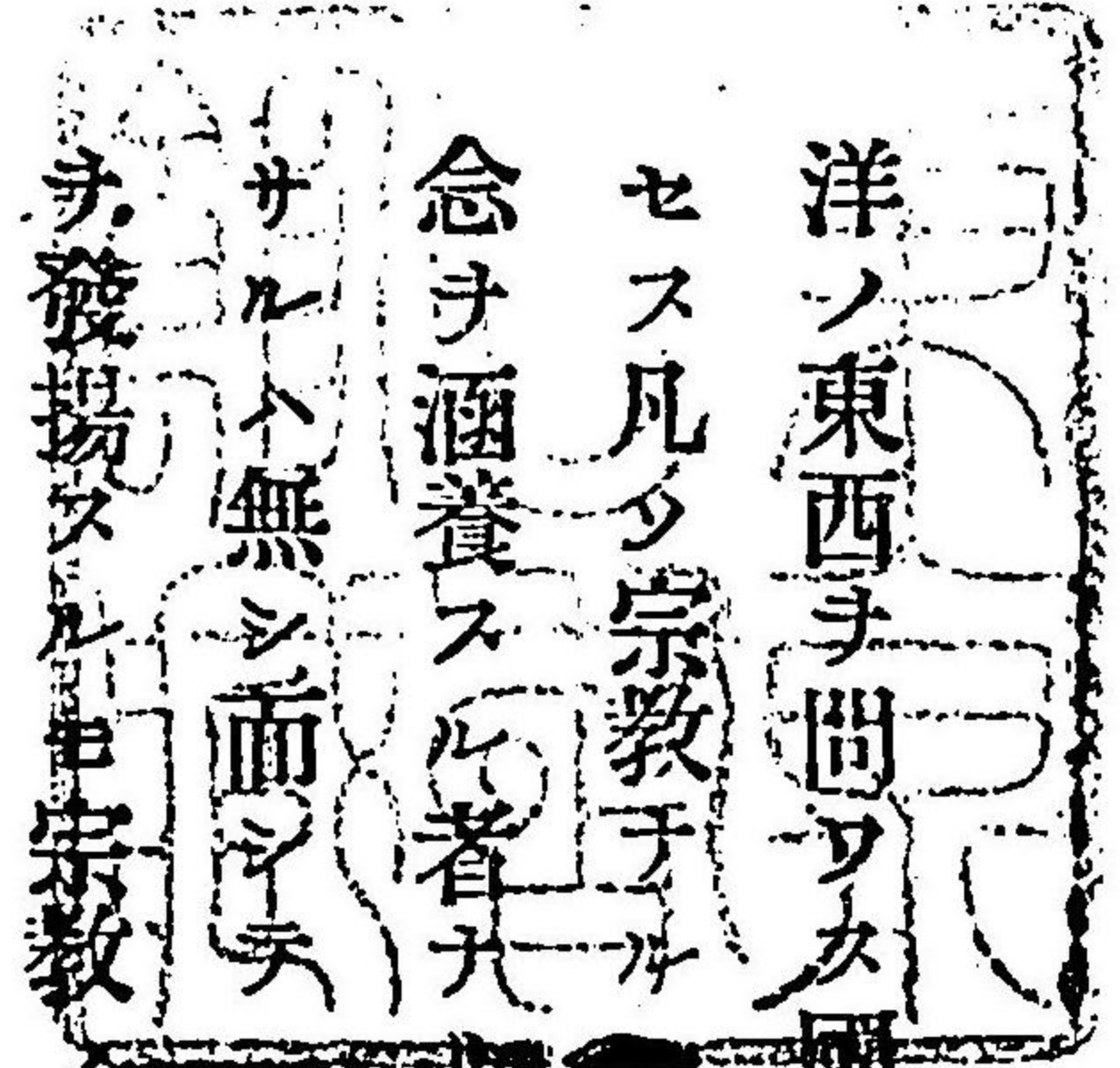
筆者曰ク余昨冬郷里ニ歸省シテ臥雲道人ヲ訪フ時某氏
來リ談偶宗教ノ事ニ及フ余側ニアツテ其高論卓說ヲ聽
キ其記憶ニ存セルモノヲ隨ツテ録シ隨ツテ寫ス積テ小
冊子ト爲ル之レヲ某氏ニ示ス某氏上梓ヲ促シテ止マス
遂ニ之レヲ臥雲道人ニ請フ道人笑ツテ而領ス顧フニ方
今宗教多岐教義亦多端國民ノ方向ニ迷ヘルモノ少シト
セス是レ此著アル所以ナリ日本國民タル者宜シク最良
ノ宗教ヲ撰擇シ之レニ因テ安心立命シ之レニ因テ豁然
貫通シテ國歩開進ノ楷梯トナラハ不肖ノ幸榮何ヲ以テ
カ之レニ過キン

明治廿九年五月

筆者誌

大日本宗教論

富海教隨述



洋ノ東西ヲ問フク國ノ南北ヲ論セス時ノ古今ヲ問フス世ノ開否ヲ論
 セス凡ソ宗教ヲカ
 念ヲ涵養スル者ナリ、吾人ノ生前モ吾人ノ死後モ皆悉ク宗教ニ因テ
 サルト無シ而シテ
 力ナリ一國ノ人情ヲ陶冶スルモ宗教ノ力ナリ一
 國ノ習慣ヲ維持スルモ宗教ノ力ナリ、亦一國ノ人心ヲ収攬スルニ無
 限ノ勢力ヲ有スルモノハ宗教ナリ乃チ短刀直入ニ宗教ノ必用ナル所
 以テ丁寧反覆ニ陳述セント欲ス

夫レ天ハ日月星辰ノ主タリ地ハ山川草木ノ主タリ吾人々類ハ其両間ニ棲息スル一個ノ有情動物ノ主宰者タリ其動物相集リテ郡ヲ爲シ隊ヲ爲ス是レヲ小ニシテハ一村ト云ヒ一郡ト云フ大ニシテハ之レヲ一國ト云ヒ一縣ト云フ此レヲ總稱シテ國家ト云フ然ラハ國家トハ個人ノ集合体ニ名ケタル統合的名詞ナリ、吾人ハ何ノ因アリテ此國家ニ生レ何ノ縁アリテ此國家ニ住スルヤ又何ノ必要アリテ此國家ヲ形チ造ラサル可ラサルカ、何ノ責任アリテ此ノ國家ニ盡ス可キノ義務アリヤ、是レ最モ吾人カ研究ス可キ緊要ナル問題ナリ世界ハ廣シ國家ハ多シ其多キ國家ノ中ニ於テ吾人ハ古來ヨリ君子國ノ稱ヲ以テ知ラレタル大日本帝國ニ生レタリ、山紫水明ノ大日本帝國ニ生レタリ、金甌無缺ノ國体ヲ有スル大日本帝國ニ生レタリ、忠勇義烈ノ心膽ヲ

以テ固メタル大和民族ニ生レタリ、是レ何ノ因縁ゾ何ノ果報ゾ凡ソ日本ニハ日本特有ノ元氣アリ、日本特有ノ國体アリ、日本特有ノ風俗アリ、日本特有ノ習慣アリ、日本特有ノ言語アリ、日本特有ノ人情アリ、日本特有ノ精神アリ、日本特有ノ宗教アリ、而シテ其風俗ト云ヒ習慣ト云ヒ國体ト云ヒ精神ト云ヒ宗教ト云フ俱ニ皆一國ヲ維持スル上ニ於テ欠ク可ラサルノ要素ナリ其要素中吾人ハ殊ニ宗教ノ一要素カ一國ヲ維持シ否國權ヲ擴張スル上ニ於テ如何ニ必要ナルカ、如何ニ勢力アルカヲ論セント欲ス

論者動モスレハ宗教ハ社會ノ進歩ヲ妨クル者ナリ否國家ノ發達ヲ害スル者ナリト他邦ハ措ヒテ問ワス餘宗ハ捨テ、言ワス吾國ノ歴史ヲ繙ヒテ古往ヨリ今日迄ノ吾佛教ノ感化ヲ見ヨ（佛教元ト他邦ヨリ傳

來スルモ吾國体ト能ク適合シテ久シク吾國民ヲ感化シ恰カモ日本固有ノ宗教トナレリ其理由下ニ出ツ)知ラスヤ我國民ノ精神カ吾宗教ニ因テ支配セラレシ事ノ如何ニ著大ナルカチ、知ラスヤ吾國ノ文物カ吾宗教ニ因テ發達セシ事ノ如何ニ莫大ナルカチ、知ラスヤ我國ノ美術カ吾宗教ニ因テ光彩ヲ放チシ事ノ如何ニ偉大ナルカチ、知ラスヤ我國ノ文學カ吾宗教ニ因テ進歩セシ事ノ如何ニ宏大ナルカチ、知ラスヤ我國百般ノ技藝カ吾宗教ニ因テ進化セシ事ノ如何ニ廣大ナルカチ、換言セハ吾國ノ文華カ吾宗教ニ因テ發起セラレシ事ノ如何ニ巨大ナルチ其實例ハ言フノ要ナシ其引証ハ論スルニ及ハス一度吾國ノ歴史ヲ閱覽セハ思ヒ半ハニ過キン

噫吾宗教ハ我國ノ精神トナリ吾國ノ骨髓トナリ我國ノ柱石トナリ吾國ノ元氣トナリ誰レカ吾宗教ヲ無用視スル者アラン誰レカ吾宗教ヲ冷眼視スル者アラン誰レカ吾宗教ヲ贅物視スル者アラン、誰レカ吾宗教ヲ翫弄視スル者アラン、世界ハ廣シ宗教ハ多シ其多キ宗教モ思フニ皆チ其國ノ精神トナリ、其國ノ元氣トナリ、其國ノ骨髓トナリ、其國ノ柱石トナリテ其國ノ發達進歩ヲ増サ、ルハナシ是レ宗教ノ勢力アル所以ナレハナリ

人或ハ謂ワン宗教ハ人類ヲシテ卑屈ニ導クモノナリ宗教ハ人類ヲ頑固ニ誘フ者ナリト、何ソ思ワサルノ甚シキヤ是レ宗教ノ眞意ヲ誤解セルモノナリ、宗教ノ眞意豈其レ然ランヤ宗教ハ決シテ人類ヲ卑屈ニ導ク者ニ非ス、宗教ハ決シテ人類ヲ頑固ニ誘フ者ニ非ス、宗教ハ人類ヲシテ進取ノ氣象ヲ興起セシムル者ナリ、宗教ハ人ヲシテ開明

ノ思想ヲ涵養スル者ナリ、他宗ハ知ラス吾宗教ノ如キハ洵ニ然リ
 試ニ思ヘ古今未嘗有ノ日清戦争ノ事ニ於テ兵士幾万ノ精神ヲ左右セ
 シ者ハ誰レソ進ンテハ決死ノ精神ヲ奮起セシメ退ヒテハ報國ノ忠肝
 ナ養成セシモノハ誰レソ拔山ノ力ト蓋世ノ氣トナ有セル干城ノ勇將
 ナシテ生ヲ鴻毛ヨリモ輕ンシ一死以テ國ニ報セシメタル者ハ誰ソ鐵
 石ノ膽ト愛國ノ心トナ以テ固メタル猛卒ナシテ兩腕ヲ扼セシメ一身
 以テ君ニ致サシメタル者ハ誰ソ幾万ノ兵士ナシテ父母墳墓ノ地ヲ離
 レ妻孥同胞朋友ヲ捨テ、一意専心ニ報國盡忠ノ赤城ヲ以テ雪霜ヲ冒
 カシ滿州ノ原野ニ戰シムル勇氣ヲ鼓舞セシ者ハ誰ソ
 叡聖文武皇帝陛下ノ知仁勇清慎勤六徳トノ率由スル所ニ屬スト雖ト
 モ吾宗教普及ノ功績ト吾僧侶斡旋ノ勤勞亦大ニ與リテ力アリ焉將相

効ナシト言ハズ將校力ナシト言ハズ然リ而シテ是レガ原動力トナリ
 テ兵士ノ精神ヲ鼓舞セシ者ハ吾宗教ニアラスシテ何ゾ
 是ヲ以テ將校諸氏異口同音ニ有形的機械上ノ訓練ハ吾等ノ責任ナリ
 無形的精神上ノ教育ハ僧侶諸氏ノ義務ナリ願クハ今后益無形的精神
 上ノ教育ニ一層ノ盡力アラン事ヲト之レニ由テ之ヲ觀レバ宗教ハ一
 國ノ人心ヲ収斂スル上ニ於テ彼ノ紛々然タル政黨ヨリモ屑々乎タル
 政黨ヨリモ偉大ナル無限ノ勢力ナ有スル者ナリ堂々タル一國ノ輿論
 モ時ニ或ハ宗教ニ由テ収斂サレタル人心ノ結合力ニハ打勝ツユト能
 ハザルユトアリ或曰フ一國ノ勢力ハ宗教ニアリト宗教ガ國家ノ上ニ
 於テ如何ニ必要ナルヤハ以テ知ルベキナリ
 吾人ハ從是論旨ヲ轉シテ個人ノ上ニ付テ聊カ宗教ノ必要ナル所以ヲ

陳述セン嗟吾人が捷息セン宇宙ノ間ニ於テ最大貴重ナルモノヲ問ハ
 バ第一ニ吾人が腔子内ニ固有セン方寸ノ靈魂ニ指ヲ屈セザル可ラズ
 見ヨ如何ニ財寶山海ニ充滿溢スルノ餘裕アルモ毎日散財放蕩ニ身ヲ
 耽溺セバ一朝其家滅亡シテ路頭ニ立ツテ乞食トナルハ世間其例ニ乏
 シカラズ而シテ赤貧洗フガ如ク身分ナルモ立志専心其ノ家業ニ勉勵
 スルトキハ結構壯麗ナル家屋ニ居住シテ安穩ニ生涯ヲ畢ルヤ火ヲ視
 ルヨリモ明カナリ其他獨佛ニ之ヒテ商業ヲ經營セント欲スルモ英米
 ニ航シテ學事ヲ研究セント欲スルモ國家ノ爲メニハ身ヲ犠牲ニ供ス
 ルモ父母ノ爲メニハ如何ナル艱難ヲスルモ朋友ノ爲メニハ如何ナル
 辛苦ヲ嘗ムルモ否誹謗ヲ受クルモ賞讚ヲ蒙ムルモ皆テ靈魂ニ由ラザ
 ルハナシ實ニ一舉手一動足悉ク精神ノ作用ヨリ發動セザルハナシ此

最尊最勝ナル精神ヲ支配スルモノハ宗教ニアラズヤ噫吾人ノ靈魂ハ
 現在一世ニノミ止ラズ遠ク未來ノ世界ニ充塞スルハ宇宙自然ノ原則
 ナリ抑々モ此ノ世界タル悲哀ノ聲ヲ以テ充滿セル苦痛ノ現場アリ
 亦歡喜ノ聲ヲ以テ充滿セル快樂ノ現場アリ宗教ナルモノハ數多ノ人
 類ヲシテ此苦痛ノ社會ヲ捨テ、快樂ノ世界ニ導クノ指南者ナリ換言
 セバ地獄ノ底ヨリ那落ノ海ヨリ涅槃ノ岸ニ極樂ノ山ニ誘フノ嚮導者
 ナリ而シテ吾人ガ此苦痛ノ世界ヲ去リテ彼ノ快樂ノ社界ニ趣カント
 スルニハ自ラ其捷途アリ吾佛教ニテモ小乘ニハ小乘ノ捷途アリ大乘
 ニハ大乘ノ捷途アリ顯教ニハ顯教ノ捷途アリ密教ニハ密教ノ捷途ア
 リ是レヲ吾佛教ニ所謂聖道門又淨土門ト稱シ或ハ難行道易行道ト云
 フ其他基督教ニハ基督教ノ捷途アリ婆羅門教ニハ婆羅門教ノ捷途ア

ラン其捷途ヲ超ヘテ始メテ涅槃ノ彼岸ニ達スルコトヲ得ルモノナリ
 其ノ捷途ヲ行ヒテ以テ快樂ノ都會ニ到ルコトヲ得ルモノナリ然ルニ
 其ノ捷途ヲ踏マズ其ノ捷途ニ由ラズ獨力以テ苦痛ノ世界ヨリ快樂ノ
 社界ニ遊バントスル者アラハ是レ我慢ナリ是レ增長慢ナリ此我慢此
 增長慢ハ決シテ永續スルモノニ非ス保存スルモノニ非ルナリ、故ニ
 苟クモ其快樂ノ世界ニ遊ヒ涅槃ノ彼岸ニ達セント欲セハ必ス其捷途
 ニ由ラサル可ラサルナリ斯ク論シ來ラハ宗教カ吾人ノ身上ニ於テ暫
 クモ離ル可ラサル必要ナルハ亦々知ル可キナリ

上段陳述スル如ク宗教ハ國家ノ上ヨリ論スルモ必要ナリ個人ノ上ヨ
 リ辨スルモ必要ナリ誰レカ宗教ノ不必要ヲ唱フルモノヤアラン實ニ
 國モ宗教ナキ國ハ野蠻ノ國ナリ人モ宗教ヲ信セサル人ハ未開ノ人ナ

リ、誰カ宗教ノ不必要ヲ唱フルモノヤアラン苟クモ宗教ノ不必要ヲ
 唱フルモノアラハ不敏ナリト雖トモ請フ宗教ノ緊要ナル理由ヲ詳論
 セン

眞ニ宗教ノ緊要ナルハ何レノ方面ヨリモ説キ起スコトヲ得ルモノナ
 リ實業ノ上ヨリ文學ノ上ヨリ政治ノ上ヨリ國際ノ上ヨリ吾人カ肉躰
 ノ上ヨリ吾人カ精神ノ上ヨリ吾人カ現在境遇ノ上ヨリ吾人カ未來生
 活ノ上ヨリ其ノ他豎ヨリ横ヨリ上ヨリ下ヨリ西ヨリ東ヨリ北ヨリ南
 ヨリ詳説スルコトヲ得ルモノナリ誠ニ宗教ノ必要ナルヲ説論スルノ
 理由ハ到底盡キルモノニアラサルナリ然ルチ今ハ唯吾人ノ鈍筆ヲ以
 テ其一端ヲ示セシノミ今ハ唯吾人ノ拙文ヲ以テ其一隅ヲ語シノミ
 抑モ世界各國ニ行ハル、宗教ノ數夥多ナリト雖要スルニ其勢力ヲ世

界ニ伸長シテ最モ多數ノ人種ヲ感化セシ者ハ佛教。耶蘇教麥吟教。ノ
 三大宗教ナラン此等ノ宗教ハ各一隅ニ割據シテ勢力ヲ逞フシ教陣ヲ
 張り法旗ヲ樹立シテ泰然トシテ動カス寂然トシテ驚カス而シテ是レ
 カ教理ノ淺深。組織ノ巧拙。教化ノ廣狹ハ第二段ニスルモ一國々民ト
 シテ是レヲ信スルノ初メ熱考ヲ要セサル可ラサル者アリ其故ハ何ソ
 ヤ曰ク其宗教ノ國體ニ害アルヤ否國風ニ適スルヤ否是レナリ如何ニ
 教理深遠ナルモ如何ニ組織精巧ナルモ如何ニ布教ノ手段善良ナルモ
 如何ニ傳道ノ方法完全ナルモ國體ヲ蔑視シ國風ヲ壞亂シテ其國ノ元
 氣ヲ頽敗シ其國ノ歴史ヲ蔑視シテ慘毒ヲ天下ニ流スカ如キ宗教ハ決
 シテ採用スルニ足ラサル而已ナラス却テ是レカ打破驅逐ニ身命財產
 ナ捐テカメスンハアル可ラス況ンヤ教理深遠ニアラス組織精巧ニア

ラサル宗教ニ於テチヤ然ルニ學力モアリ識見モアル國民ニシテ茲ニ
 慮リナク些少ノ黃白ニ戀々トシテ奉ス可ラサル宗教ヲ奉シ信ス可ラ
 サル法教ヲ信シテ宗廟ヲ汚穢シ神聖ヲ誹毀スル者ノ、如キニ至ツテ
 ハ人界以外ニ在ル者ト云ワサルヲ得ス實ニ吾國體ヲ思フノ賢士吾歷
 史ヲ慕ノ淑女タルモノ豈深ク察セスシテ可ナランヤ。吾人ハ是レヨ
 リ一步ヲ進メテ如何ナル宗教カ吾國體ニ適合シテ吾國民ノ元氣ヲ開
 發シ吾國ノ歴史ヲ確守シテ國利民福ノ基礎ヲ確立スルヤヲ説カント
 欲ス

蓋シ吾國ニ行ハル一宗教其數二三ニシテ足ラスト雖今ヤ其勢力ヲ張
 大ニシテ法陣ヲ齊整シ刀劍ヲ交ヘテ鹿ヲ瑞穂ノ中原ニ逐ワントスル
 者ハ佛。耶。ノ兩教ニシテ是レカ勝敗ハ吾國ノ盛衰強弱ヲトスルニ

足ラント欲スルノ有リ様ナリ、故ニ此両教ノ上ヨリ此レカ斷案ヲ降セハ之レヲ了知スル何ノ難キユトコレアラシ

吾人ハ佛教カ久シク吾國ニ傳來セシヲ以テ佛教ニハ毫モ國体ト違背セスト云フカ如キ僻論ヲ唱フルモノニ非ラス亦耶蘇教ハ近ク吾國ニ到來セシヲ以テ吾國風ト衝突スルト云フ如キ不當ノ說ヲ爲スモノニ非ルナリ、吾人ハ茲ニ吾國体ノ根據タル吾道義ノ基礎タル教育勅語ヲ標準トシ定義トシテ此等両教ノ教理ヲ探究シテ其是非ヲ分テ其善惡ヲ明ニセント欲スルモノナリ

吾叡聖文武ナル皇帝陛下

明治廿三年十月三十日ヲ以テ國民ノ

腦髓タル國民ノ柱礎タル教育ニ關スル勅語ヲ發布セラレタリ、吾人ハ襟ヲ正フシテ之ヲ捧讀セリ席ヲ拂フテ之ヲ拜誦セリ、吾人ハ優渥ナル陛下ノ大御心ニ感泣セリ嗟誰レカ我國民トシテ此勅語ヲ奉戴感佩セサル者ヤアラシ、吾人ハ恐レ多キユトナレドモ吾陛下カ勅語ヲ發布シテ國民ノ精神ヲ專一ニ鞏固ナラシムル原因ヲ聊カ布行セント欲ス

此時ニ方リ歐米ノ文物ニ心醉スルノ學者アリ論客アリテ或ハ英國ニ行ヒテ學習スルモノハ吾國体ノ如何ヲ顧ミス直ニ英國主義ヲ以テ吾國万端ノ事ヲ舉行セント欲シ或ハ獨逸ニ航シテ學習スルモノハ吾國風ノ如何ヲ思ワス單ニ獨逸主義ヲ以テ吾國百般ノ業ヲ經營セント欲ス其他佛國ニ米國ニ各自カ學習スル意見ヲ以テ吾國民ノ精神ヲ陶冶セント欲スル者ハ識者ノ已ニ了知スル處ナラシ

若シ各自國民ノ教育ヲ左右スル如此ナレハ其結果果シテ如何、實ニ

一國々民ニシテ英國主義ヲ以テ吾國体ヲ改造セント欲スル論者アラ
 ン、或ハ米國主義ヲ以テ吾國法ヲ變更セント欲スル議者アラン果シ
 テ然ラハ吾國民ニシテ精神違背ノ人物ヲ養成セハ吾國ノ將來ハ果シ
 テ如何、是ヲ以テ吾國民ハ如何ナル學派ヲ研究スルモ、如何ナル宗
 教ヲ信スルモ吾國民ノ精神上ニ至ツテハ吾國特有ナル日本魂ヲ充分
 ニ發達スル一定ノ標準無カル可ラサランヤ

吾人ハ此解釋ニシテ誤謬ナシトセハ何レノ學派ヲ研究スル上ニ付テ
 モ何レノ宗教ヲ信スル上ニ付テモ此レカ標準ヲ立ツルニ於テ塵芥ダ
 モ吾國体ヲ害傷スルノ學派ナレハ如何ニ眞理ノ充滿セル學派ニテモ
 深ク研究スルモノニ非ス、此レカ明鏡ニ照シテ些少タモ吾歴史ヲ蔑
 視スルノ宗教ナレハ如何ニ教理完全ナルモ決シテ深ク信スルモノニ

非ルナリ

苟クモ吾國体ヲ害傷セス吾歴史ヲ蔑視セス以テ國民ノ智能ヲ發達シ
 國体ノ鞏固ヲ培養スルノ學派ヤ宗教ナレハ吾人ハ何レノ學派ヲ問ワ
 ス何レノ宗教ヲ論セス採用シテ以テ國利民福ヲ増進セント欲スルモ
 ノナリ吾人ハ今學派ハ省略シテ論セス宗教ノ上ニ付テ聊カ歷史上ヨ
 リ陳論セントス

熟ラ〜吾國ノ歴史ヲ閱覽セハ剖判已來天神出現シテ此土ヲ開拓シ
 神祖以後已ニ二千有餘年久シキ皇統連綿トシテ傳來スルモ恐ラク吾
 國ヲ除クノ外全世界中未タ其比ヲ見サルナリ然リ而シテ今日吾人ノ
 狹隘ナル智識ヲ以テ太古ノ歴史ヲ觀察セハ邈焉トシテ了解ニ苦シム
 處ナシトセス茫乎トシテ疑惑ヲ生スル處ナシトセス是レ獨リ吾國而

己ナラス支那ニ付テ見ルモ印度ニ徴シテ見ルモ亦然リ否唯東洋諸國ノミナラス西洋ノ如キモ亦然ラン彼ノ耶蘇教書ニ云フ處ノ創世紀ヲ見ヨ奇怪ナルアダムイブノ二人カ始メテ此世界ニ出現シテ天地萬物ヲ造出セリ云云是レ復吾人カ現代ノ智識ヲ以テ考フルトキハ實ニ満足セス實ニ了解セサルモノナリ然ルニ耶蘇教信スル人々ノ談話スル處ヲ聞クニ聖書ノ上ニ説示セシゴツト眞神ノ教理ハ眞實ニシテ毫モ虚偽ニ非ルナリ日本ノ歴史ニ、、、トアルハ皆多クハ虚偽ナリト陳述シテ悉ク日本ノ歴史ヲ反古ニセリ吾人ハ前述ノ如ク何レニシテモ現代ノ如ク狹隘ナル智識ヲ以テ斷案ヲ下セハ疑團氷解セサルモノナリ吾人ハ同等ニ疑團アリテ了解スル能ワサルモノナンハ吾國ニ生出セシナ以テ吾國ノ歴史ヲ眞實トシテ深ク尊信スルモノナリ、然

ルニ吾國ニ生出シナカラ吾國ノ歴史ヲ尊信セサルモノハ不義ノ國賊ナリ、吾國ノ歴史ヲ反古ニスルモノハ不忠ノ國賊ナリ、吾人ハ畏クモ神聖ニシテ犯ス可ラサル天皇ヲ奉戴セル神ノ末裔ナリ若シヤ耶蘇教徒カ尊信セシ創世紀ヲ以テ眞實トセバ吾國ノ天皇ハアダムイブノ末孫ト言ワサルヲ得ス是レ何タル不敬ソヤ甚ダシキニ至ツテハ天皇ヤ父母ト雖漸ク一生涯ノモノナリ天父ハ永遠ノ救主ナレハ假令天皇ヤ父母ノ教訓ニ違背スル事アルモ天父ノ教訓ニハ違背スル事能ワスト、公然人々ニ陳述シテ忌ミ憚ラサルモノアリトカ吾人ハ如何ニ耶蘇教徒ニシテモ如是人々ノ無キヲ信スルモノナリ若シヤ是レアリトセハ實ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ是レ耶蘇教カ吾國ノ歴史ト衝突シテ吾國体ヲ蔑視シ吾國風ヲ壊破シテ吾國ノ元氣ヲ害傷スル一大要点ナ

リ其他ノ些々タル事情ハ吾人ノ念頭ニ介セサル處ナリ然ルニ耶蘇教
 信者ニシテ聖書中親ニ事フル一段君ニ事フルノ一段ヲ以テ耶蘇教ハ
 君ニ向ツテ決シテ不敬ヲ教ユルモノニ非ス親ニ對シテ毫モ不孝ヲ導
 クモノニ非スト得意然トシテ演說ニ說教ニ新聞ニ雜誌ニ以テ辨論セ
 リ彼等公平ニ平氣ニ以テ全世界ニ流行セル宗教ノ有様ヲ見ヨ如何ニ
 劣等ナル宗教ナリト雖苟クモ宗教ト云フ名目ノ付ク已上ハ風無キニ
 波ヲ起シテ國家ヲ害傷ス可シト教ユル宗教アランヤ、否君王ニ事ヘ
 テ不忠ヲナス可シト誘フ宗教アランヤ、否父母ニ對シテ不孝ヲナス
 可シト導ク宗教アランヤ、是レ宗教ノ宗教タル所以ナリ故ニ今吾人
 ガ論鋒ヲ下セシモノハ審判スルノ時如何ニアルモノナリ
 議者或ハ曰ワン吾國ニ生出セシ宗教ナレハ善良ナラント吾人ハ吾國ノ

生出ナルヲ以テ直ニ善良ナルモノト應スルモノニ非ス、何トナレハ
 吾國ノ生出ニシテ而カモ吾國ノ歴史ヲ反古ニスルノ憂ヒアルノ宗教ハ
 ナキカ、彼ノ近來彼處此處ト蔓延セシ天理教ノ如キハ十柱ノ神ヲ立
 テ餘神ヲ奉祀セサルモノ、如シ否十柱ノ神ヲ總稱シテ天理王ノ命ト
 云フニ非ズヤ若シ此ノ解釋ニシテ誤謬ナシトセバ前陳ノ如ク吾國ノ
 明鏡タル歴史ニ照セバ判然ナラン嗟吾國ノ歴史ヲ如何ニ探索スルモ
 十柱ノ神總稱シテ天理王ノ命ト云フ明文ナシ如何ニ古事記ヤ舊事記
 ヲ檢閲スルモ十柱ノ神ヲ奉祀シテ餘ノ神タル即八百万神ヲ奉祀ス可
 ラスト云フ金言ハ見ザルナリ否非ザルナリ是レ識者ノ既ニ論定スル
 所ナリ故ニ吾人ハ是等ノ神道ハ日本生出ナリト雖反ツテ日本ノ歴史
 ヲ反古ニスルノ一大毒虫ト謂ハザルヲ得ズ是レ耶蘇教ニ帶説シテ少

シク贅スルノミ

吾人ハ今耶蘇教等ニ付テ如是討論スト雖決シテ彼等教徒ト私怨アルニ非ズ況ヤ物古セシ彼等教祖ニ於テナヤ唯吾國家ヲ思フノ微衷ニ出ツルノミ故ニ吾人ガ見解ト異ニシテ毫モ我が國体ト衝突セズ我が歴史ヲ反古ニセズ以テ益々一國ノ元氣ヲ發達スルノ宗教ナレバ吾人ハ歡ンデ之ヲ奉迎シ勇ンデ之ヲ擴張セント欲スル者ナリ何ントナレバ國家ト云フ觀念ヲ廢止シテ宗教ト云フ点ヨリ見レバ兄弟ニシテ無宗教者ニ對シテハ俱ニ提携シテ當ラント欲シ否ラザレバ應分ノ道續ヲ培養スル者ナレバナリ

吾人ハ從是我國ニ久シク傳來シテ數多ノ信徒ヲ有スル佛教ニ付テ彼ノ標準ヲ以テ善惡邪正ヲ調査セント欲ス佛教モ元ト異國ヨリ渡來セ

シ者ナレバ最モ必用ノユトナラント信ズ

夫レ佛陀ノ教法ハ總ベテ世界ノ組織ヲ吾人々類共業所感ノ結果ト説示セリ是ヲ以テ吾人ノ如キ立憲君主政体ノ國ニ生出シ來ル者ハ過去ノ世界ニ於テ其ノ原因ヲ造作セシヲ以テ此ノ萬國無比ノ國体ヲ有スル大日本帝國ノ報土ニ生レ來ルノ結果ヲ感受セシ者ナリ故ニ吾人ハ恐レ多クモ我カ天皇陛下 一世ニ付キ二世ニ付キテ奉事スルノ因縁約束ヲ有スル者也故ヘニ吾天皇陛下ノ命令ナレバ如何ナル熱火ノ中ニモ侵入スベシ如何ナル氷雪ノ裡ニモ勇往スベシ否ラザレバ吾天皇陛下ノ命令ナレバ財寶ヲ惜マズ身命ヲ捨テ奉事スルノ義務アリ故ニ假令君君タラズト雖臣々タルノ大義名分ヲ全フセズンバアルベカラズ是レチ一家ニ應用シテ云ババ亦然リ親々タラズト雖子々タル

ノ大義名分ヲ全フセズンバアルベカラズ其他夫婦兄弟等ニ於ケルモ亦然リ

實ニ臣民ニシテ此精神ヲ以テ至尊陛下ニ奉事セバ何ゾ不滿ヲ生ズルコトヤアラン或ハ子弟ニシテ此精神ヲ以テ父母ニ對シ師長ニ對セバ何ゾ不足ヲ抱クコトヤアラン

特ニ吾人が此際ニ於テ最モ此說ヲ唱ヘテ國民ノ惱裡ニ注入セント欲スル者ハ我朝野ノ政事家種々ニ身ヲ勞シ思ヒナ凝セシ條約改正モ完濟シテ近々ノ年月ヲ經過セハ吾内地ヲ開放シ異種ノ人類ト雜居シテ優勝劣敗ノ競争場裡ニ立ツテ毫モ動セス驚セス而カモ彼等ノ右ニ秀出セスンハアル可ラス此ノ培養方法ニ至ツテハ色々ノ手段アリト雖吾人ハ完全ナル教育ト善良ナル宗教ニ重キヲ置クモノナリ

復亞米利加合衆國等ノ共和政体ノ國ニ生ル、モノハ過去ノ世界ニ於テ其共和政体ノ國ニ生ル、丈クノ原因ヲ造作セシニ依テ其國へ生産スルノ結果ヲ得受セシモノユヘニ其國風ニ應合シテ以テ其國体ヲ鞏固ナラシムルモノナリ

故ニ吾佛教ハ耶蘇教等ノ如キ歴史ノ範圍ヲ脱却セシ宗教ニシテ何レノ國ニ至ルモ其國体ヲ益々鞏固ニシ其國ノ歴史ヲ確守シ其國ノ元氣ヲ奮起シテ國利民福ヲ増進スルヤ鏡ニ懸ケテ見ルヨリモ明カナリ是ヲ以テ輓近歐米各國ノ學者間ニ於テ佛陀ノ教理ヲ研究スルモノ、數多アルハ世人ノ己ニ知ル處ナラン

而シテ彼等ノ言ハニ佛教ハ諸派ノ學理ト能ク合シテ智識ノ進歩ヲ妨害セズ其國ノ風俗ヲ破壊セズ、而カモ宗教ノ本領タル道德上ノ說示

ニ至ツテハ耶蘇教諸派ノ如キ心外ニ造物者タルゴツト眞神ヲ設立シテ道德ノ標準ヲ確定スル如キ不完全ナルモノニ非スシテ總ベテ標準ヲ吾人作業ノ上ニ取ルモノユヘニ道義ノ堅全ナルハ今更吾輩ノ喋々ヲ要セス東西ノ具眼者カ是認スル所ナリト

故ニ吾人ハ將來世界ノ宗教ヲ統合スルノ時代來ルトキハ第一ニ吾佛教ニ指ヲ屈スルユトハ深ク信シテ疑ワサル處ナリ、佛教ノ吾國へ渡來シテ已ニ千有餘年ノ間山野ヲ開拓シテ植産ノ事業ヲ起シ橋船ヲ經營シテ運搬ノ便利ヲ爲シ其他文學ニ美術ニ教育ニ政事ニ實ニ先王ノ吾國家ト佛教ト盛衰ヲ同フシ榮枯ヲ俱ニセント大詔ヲ降シ玉フモ實ニ其理由ヲシトセス是レ全ク吾國体ヲシテ益堅固ニ吾歴史ヲシテ愈確守スル一大根據ノ組織カ確定スル所以ノ宗教ナレハナリ嗚呼世ノ

識者ヲ以テ自任スル議者君子タルモノ豈深ク鑒ミル所ナクシテ可ナランヤ

吾人ハ今茲ニ勅語ヲ詳解スルノ閑ヲ有セスト雖畏クモ勅語カ吾佛教于恰カモ符節ヲ合スルノ感アリ佛教ニハ國家的道義ノ標準ニハ四恩ヲ以テシ個人的道義ノ標準ニハ十善ヲ以テス初メニ勅語ヲ服膺シ然ル後四恩。十善。ヲ列スル左ノ如シ

朕惟フニ我皇祖皇宗國ヲ肇ムルユト宏遠ニ德ヲ樹ツルユト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我國体ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦ニ相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進ン

テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スル足ラ

明治廿三年十月卅日

御名 御璽

噫吾介文允武ナル天皇陛下 皇祖皇宗ノ遺訓ニ根據シテ人倫ノ大綱ヲ明示シ玉ヒシ聖勅ニアラスヤ吾等臣民タルモノ恭シク聖勅ヲ奉

體シテ身ヲ修メ家ヲ齊ヘテ益國家ノ發達ヲ企圖セスシテ可ナラスヤ
四恩

一國王恩、二父母恩、三衆生恩、四三寶恩（已上四恩ノ事ハ心地觀經ノ報恩品ニ詳説セリ）

十善

一不殺生、二不偷盜、三不邪淫、此三ヲ以テ吾人肉躰上ノ警戒トス
四不妄語、五不綺語、六不惡口、七不兩舌、此ノ四ヲ以テ吾人言語上ノ警戒トス

八不慳貪、九不瞋恚、十不邪見、此三ヲ以テ吾人意想上ノ警戒トス
實ニ佛教所説ノ國家的道義モ完全ナルモノニ非スヤ個人的道義モ緻密ナルモノニ非スヤ是レヲ布衍シテ無量無邊ノ道義トナルモノナレ

ハナリ眞ニ斯ク羅列シテ能々兩者ヲ照合セハ其眞意ヲ得ルヤ明カナ
ラン 委シク他日ニ譲ラン

吾人日本國民タルモノハ宗教ヲ信スル權利ヲ有スルハ吾憲法ノ証明
スル所ナリ吾人如何ニ宗教ヲ信スル權利ヲ有スト雖國体ヲ毀損スル
ノ宗教ハ信ス可ラサルナリ如何ニ宗教必用ナリト雖國權ヲ侵害スル
ノ宗教ハ信ス可ラサルナリ、如何ニ宗教必要ナリト雖國民ヲシテ愛
國心ヲ薄弱ナラシムルノ宗教ハ信ス可ラサルナリ、如何ニ宗教必要
ナリト雖國民ヲシテ忠孝ノ念ヲ掃蕩スルノ宗教ハ信ス可ラサルナリ
實ニ國家ト宗教トハ重大ノ關係ヲ有スルモノナレハナリ、人若シ宗
教ノ善惡良否ヲ知ラント欲セハ教育勅語ノ明鏡ニ因テ判セヨ教育勅
語ハ實ニ熒明透徹タルハ大圓鏡ナリ、人一度此一大圓鏡ニ向ヘハ天

地ノ醜宇宙ノ美事物ノ眞、道理ノ偽、社會ノ濁世界ノ清森羅ノ善万象
ノ惡皆悉ク歷然トシテ觀ルユトヲ得ルモノナリ況ンヤ宗教ノ善惡良
否ニ於テチヤ

吾人ハ從是一歩ヲ轉シテ如何ニ道義ノ上ニ於テハ完全無欠ノ宗教ヲ
リト雖智識ノ進歩ヲ妨害スルノ宗教ハ一國々民トシテ決シテ信仰ス
可キモノニ非ス吾人ハ智識ノ進歩如何ヲ陳述スルニ先ツテ聊カ宗教
ト學術トノ區別ヲ説明セント欲ス

世界各國ニ行ハル、宗教ノ數夥シト雖是レヲ概羅シテ宗教ノ要素如
何ト云ハ、信仰爲本ニシテ道德ヲ培養スルモノナリ亦學術ナルモノ
モ古今ノ學派ヲ列舉セハ其數多キト雖是レヲ總括シテ學術ノ要素如
何ト云ハ、疑惑爲本ニシテ智識ノ進歩ヲ養成スルモノナリ

是ヲ以テ東西古今ノ學者ニシテ宗教ヲ信スルコトヲ批難スルモノ少カラス彼ノ耶蘇教祖カ初メテ立教開宗シテ布行擴張スルニ當リテハ其時ノ有名ナル學者サドカイ等ノ一派ハ耶蘇教ヲ信セサルノミナラズ痛ク攻撃センユトハ史傳ノ證明スル所ナリ而シテ無學無識ノ漁夫ニシテ堅ク信セシモノハ高第中ニ數ヘラレテ今日ニ至ル迄彼ノ教徒ヨリ尊信サル、モノナリ吾國ニテモ黒住教等ノ如キニ徴シテ見ルモ明カナラン是レ上來陳述スル如ク宗教ト學術トノ要素ヲ異ニセシ所以ナリ

余ハ此ニ至ツテ深ク信ス將來文明世界ニ立ツテ國民ノ腦裏ヲ支配スル宗教ハ道義ノ完全ナルハ勿論而カモ智識ノ發達進歩ヲ計ルノ宗教ニ非サレハ毫モ國家利益ナシ個人ニ幸福ナキモノト信ス

近來歐米各國ノ學者ニシテ耶蘇教ナルモノハ道德ノ良否ハ第二段ニスルモ智識ノ進歩上ニ一大害毒ヲ與フルモノト云フモノ少カラス其例証ニ曰ク茲ニ水アリ抑モ此水ナルモノハ如何ナル原素ヨリ成立セシト云ハ、皆異口同音ニ水素ト酸素ヨリ成立セリト其水素酸素ヲ分拆シテ此レハ如何ナルモノヨリ成立セシト云フニ至ツテハ未ダ全世界中誰レモ之ヲ發見セシモノナシ、此時ニ當リテ耶蘇教師等曰ク是レカ如何ニシテ明了ナルユトヤアル是レハ造物者即チ天帝タルモノ、造作ニシテ吾々人間ノ智識ヲ推知スルユト能ワスト陳シテ吾々人間ニ安心ヲ與ヘテ智識發達ノ一大要素タル疑惑ノ念慮ト探究ノ思想トヲ脱却セシム是レ智識ノ進歩ヲ妨害スル一例ナリ

凡ソ事物ノ眞理ヲ發顯スルハ一朝一夕ニ發明スルモノニ非ス長年月

ノ間種々ナル疑惑ヲ起スニ随ツテ色々ナル探究ヲ爲シテ遂ニ一大發明ヲ來セシコトハ識者ノ言ヲ俟タスシテ明カナリ是ニ至ツテ吾人ハ耶蘇教ナルモノハ智識ノ進歩ヲ妨害スル宗教ナリト云フニ躊躇セサルナリ

佛教ナルモノモ一種ノ宗教ニシテ信仰爲本タルハ明了ナリト雖曖昧糲糊タル道理ヲ信仰ス可シト説クモノニ非ス否龜毛兎角ノ如キ都無ノ物体ヲ信仰ス可キト教ユルモノニ非サルナリ

佛教ハ一名因果宗ト名クルモノニシテ總ヘテ事物ヲ原因結果ノ理法上ニ取ルモノナリ是ノ故ニ佛教ハ事物ノ眞理ヲ發見スル一大要素タル疑惑ヲ念慮ト探究ノ思想トヲ脱却セシメテ之レハ佛陀ノ造作セシモノニシテ吾々ノ智識ヲ以テ推測スル能ワスト云フモノニ非ルナリ

而カモ道德ノ標準ニ至ル迄原因結果ノ理法上ニ立ルモノナリ斯ク論シ來ラハ佛教ノ吾歴史ヲ反古ニセス吾國体ヲ毀損セス智識ヲ増進シ道義ヲ培養シテ益國民ノ元氣ヲ發達スル善良ノ宗教ナルハ論ヲ待タス是レ日本國民カ信ス可キノ宗教ナリ吾人ハ此ノ宗教ヲ運轉スル組織方法ニ至ツテハ他日之レヲ詳論セント欲ス

明治廿九年七月七日印刷
全 年七月十七日發行

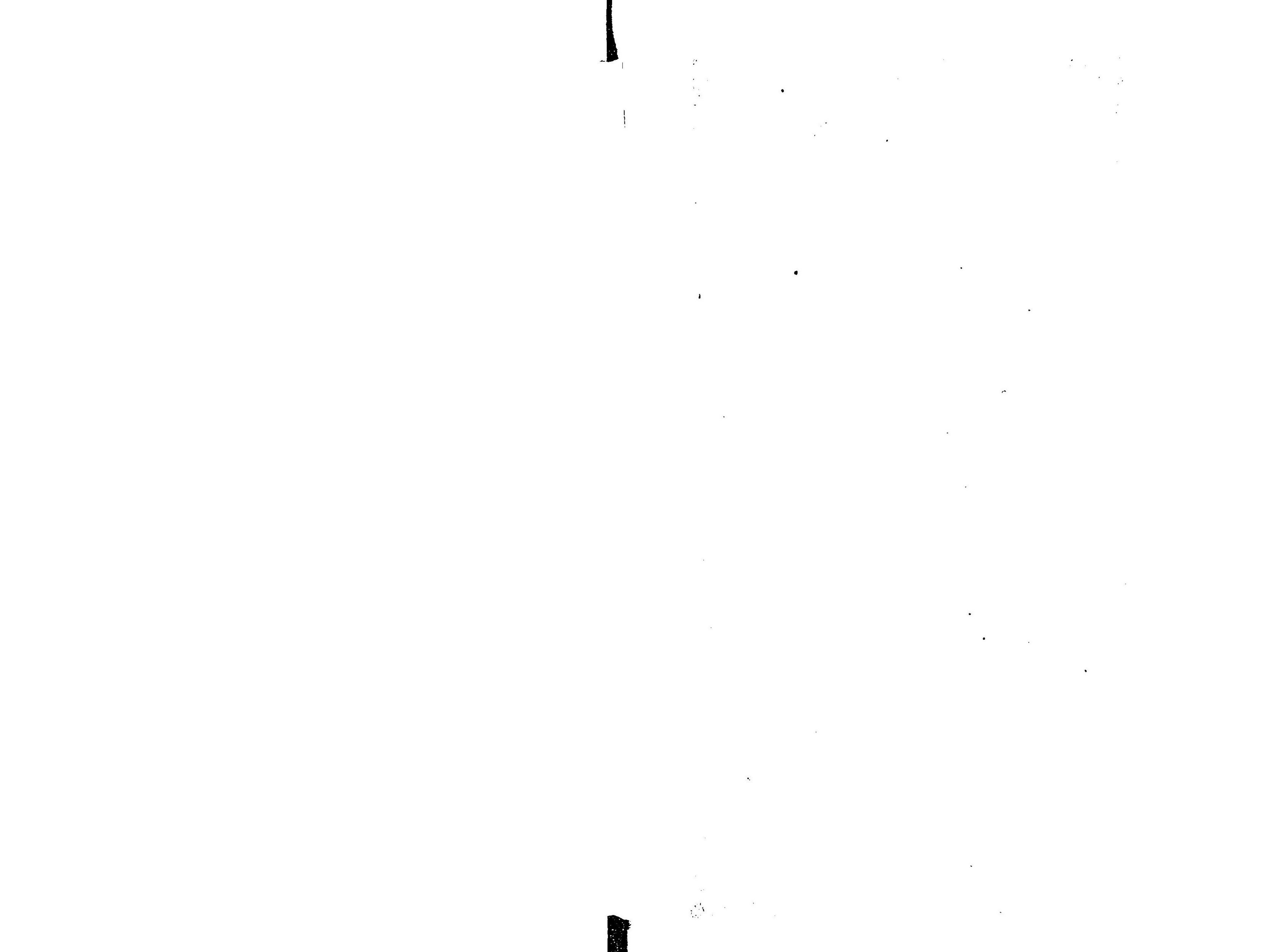
定價貳拾錢

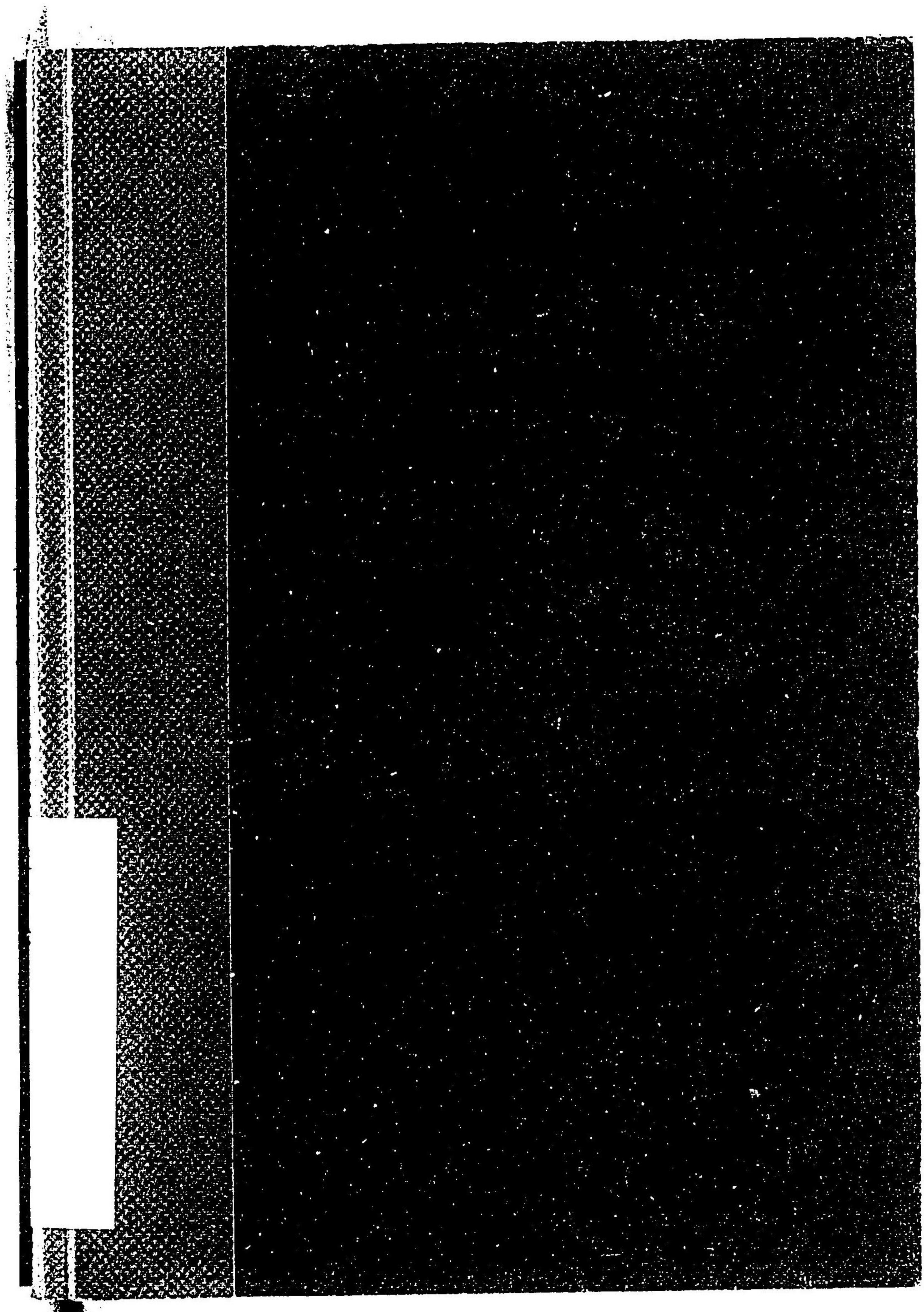
述者兼發行者 富海教隨
岡山縣備前國上道郡芳野村
大字淺越拾五番邸

筆者 德田智圓
京都府下宇治郡山科村
大字小野五百番地

印刷者 小坂清作
岡山縣岡山市大字榮町八番邸寄留

發行所 松壽院
備前國上道郡芳野村大字淺越拾五番邸





特50

234

大日本宗教論

国立国会図書館

013713-000-1

特50-234

大日本宗教論

富海 教随/述

M29

ABA-0188

